

ハンカチを持ち歩かない淑女

生野来実

規則正しいリズムでは会えない人

私が夜中のトイレに行けば 洗面所でコンタクトをつけ、髭を剃っている

私が夜更かししようと特番のCMを眺めれば スーツを脱いで母の料理を食べ
べている

父

かろうじて存在を忘れられずにいたのは

皮脂の臭いと煙草のヤニが染みた部屋に落ちている大量の毛髪と

気の抜けたエアーマットの凹み、

ゴミのように散らばっている物たちのおかげだ

リビングの机、母と寝ている布団、子ども部屋の引き出し、小学校のロッカ
ー、

公園の遊具の影、スーパーのカート置き場にもない

扉を開けた父の部屋にしかない物たちに囲まれる日曜日

黄色い壁に沿って積まれた コナンくんが描かれているマガジンの表紙
ヤスリのような紙に指の水分を舐められながら捲る

文字で埋められた吹き出しはQRコードのようで、漢字ばかり

変顔かと思えば殺人現場

ジェンガが崩れる音に首を振り、引き抜いた一冊を頂上へ返した

ウォークインクローゼットにかけられているネクタイたちに問う

ピンク色でハート柄のネクタイはないのか

父は青色か黒色のストライプ模様が好きなのか